

## 多くの「タスク」をこなす中でも、絶対に見逃してはいけない症例①

◎大橋 勝春<sup>1)</sup>

独立行政法人 地域医療機能推進機構 三島総合病院<sup>1)</sup>

### 【症例①】

80代 女性

既往歴 : 高血圧症

現病状 : 38℃の発熱が3日間つづき、近医、かかりつけ医院を受診し、発熱性白血球減少症の疑いにて他院より、当院呼吸器内科に紹介

初診時 : WBC 8 (10<sup>3</sup>/μL) ・ Hb 8.9 (g/dl) ・ Plt 91 (10<sup>3</sup>/μL) と汎血球減少が認められた。  
凝固検査にてPT軽度延長・APTT正常と線溶亢進が認められ、追加、出血時間は正常

精査加療目的で入院

多くのタスクをこなす中で、どれだけ繁忙であっても、汎血球減少等、血液疾患の可能性を疑う所見を認めた場合、血液担当技師は、血液像を目視にて確認する必要がある。

医師から指示されることだけでなく、血液担当検査技師が、検査室側から緊急性のある情報を医師に発信することで、臨床支援、検査技師の存在価値に繋がると考える。